

交替劇プロジェクト公開講座

『ヒトはどのように学んできたか？』

— 狩猟採集民の子どもたちと人類の未来 —

2012.12.22(土) 13:00-17:00

第4回

会場: キャンパス・イノベーションセンター東京 国際会議室

定員: 100名(先着順) 入場: 無料

住所: 東京都港区芝浦3-3-6 <http://www.cictokyo.jp>

主催: 科学研究費補助金・新学術領域研究「旧人ネアンデルタールと新人サピエンス交替劇の真相: 学習能力の進化に基づく実証的研究」

●プログラム(第4回)

13:00-13:30 寺嶋 秀明(神戸学院大学)「学習の過去・現在・未来」

13:30-14:10 今村 薫(名古屋学院大学)「物まねしながら手本を越える—サンの子どもたちの場合」

14:10-14:50 林 耕次(神戸学院大学)「森から学ぶ未来—バカ・ピグミーの子どもと狩猟採集活動」

14:50-15:00 休 憩

15:00-15:40 小山 正(神戸学院大学)「象徴遊び—バカ・ピグミーの子どもの育ち」

15:40-16:20 窪田 幸子(神戸大学)「甘やかしと儀礼で育つアボリジニの子どもたち」

16:20-17:00 大村 敬一(大阪大学)「創造性を育む「からかい」: イヌイトの子どもの学習にみる忍耐と根性の意義」

20万年前の新人ホモ・サピエンス誕生。
その後、アフリカを起点にして世界各地で起こった新人と旧人ネアンデルタールの交替劇。
いったい何が、両者の命運を分けたのか。その答えを、まだ誰も見いだせないでいる。
その謎を一気に解き明かそうという試みが、世界に先駆けて日本ではじまった。
その研究の進展をリアルタイムで発信する公開講座です。

問い合わせ先: Email: akazawa.takeru@kochi-tech.ac.jp

交替劇プロジェクトホームページ <http://www.koutaigeki.org>

交替劇プロジェクト公開講座

『ヒトはどのように学んできたか? - 狩猟採集民の子どもたちと人類の未来 -』

2012.12.22(土) 13:00-17:00

第4回

講師紹介

寺嶋秀明 (てらしま ひであき) (神戸学院大学・人文学部・教授)

略歴: 京都大学大学院理学研究科博士課程単位取得退学。理学博士(京都大学)。専門は生態人類学。

講演内容: 「学習の過去・現在・未来」 学ぶことによって私たちホモ・サピエンスは進化しました。しかし、それは学校での学びではなく、ましてや受験や資格のための学びではありません。人類の本来の学びとはどのようなものか。私たちは狩猟採集民の子どもたちと日々の暮らしをともにし、彼らの学びを調べることによって、人類の学びの原点を探ってみました。その中から私たちの未来の学びについても考えていきます。

今村 薫 (いまむら かおる) (名古屋学院大学・経済学部・教授)

略歴: 京都大学理学研究科博士課程単位取得退学。理学博士(京都大学)。専門は人類学。

講演内容: 「物まねしながら手本を越える - サンの子どもの場合」 サン(ブッシュマン)の子どもたちは、物まねの天才です。動物や鳥の声、また、大人たちの仕事を真似て遊びにしています。さまざまな技術の習得も、大人がとくに教えなくても、大人をよく見て技術を覚えられます。最近、子どもたちは、大人の狩猟を真似て演劇のようにするという遊びも考えだしました。「物まね」の技術、遊び、演劇、創造へとつながる面を紹介します。

林 耕次 (はやし こうじ) (神戸学院大学・人文学部・ポスドクトラルフェロー)

略歴: 総合研究大学院大学先導科学研究科博士課程単位取得退学。学術博士(総合研究大学院大学)。専門は生態人類学、アフリカ地域研究。

講演内容: 「森から学ぶ未来 - バカ・ピグミーの子どもと狩猟採集活動」 アフリカ熱帯雨林で暮らす狩猟採集民バカ・ピグミーの活動から、子どもたちの取り組みや他者との関わり方に注目しながら、森での暮らしを通じてどのようなことを学んでいるのかを紹介します。また、定住化や市場経済の浸透といった、近年の生活環境の変容に直面する中で、彼らの未来についても考えます。

小山 正 (こやま ただし) (神戸学院大学・人文学部・教授)

略歴: 大阪教育大学大学院修士課程修了。学術博士(神戸大学)。専門は発達心理学・言語発達心理学・障害児発達学。

講演内容: 「象徴遊び - バカ・ピグミーの子どもの育ち」 遊びのなかでの発達、特に子どもの象徴遊びの発達の意義について考え、狩猟採集生活のなかで育つバカ・ピグミーの子どもの認知や表象の発達、そこにみられる柔軟性に関して述べます。

窪田幸子 (くぼた さちこ) (神戸大学・大学院国際文化学研究所・教授)

略歴: 甲南大学大学院博士課程単位取得退学。社会学博士(甲南大学)。専門は文化人類学。

講演内容: 「甘やかしと儀礼で育つアボリジニの子どもたち」 オーストラリアの先住民、アボリジニ社会では、子どもは大変可愛がられ、多くの女性たちに囲まれ、甘やかされて育ちます。そのような子どもたちは大変わがままになると思われるのですが、その子どもたちに社会性を持たせるのに、彼らの社会で最も重要とされる神話にかかわる「儀礼」がカギとなっています。そんな彼らの社会の子育てを紹介します。

大村敬一 (おおむら けいいち) (大阪大学・大学院言語文化研究科・准教授)

略歴: 早稲田大学文学研究科単位取得退学。文学博士(早稲田大学)。専門は認知人類学・感情の人類学・極北人類学。

講演内容: 「創造性を育む「からかい」: イヌイトの子どもの学習にみる忍耐と根性の意義」 イヌイト社会では「自律」が重要な社会的態度のひとつです。そのため、イヌイトの子どもたちは、自ら観察し、自ら考え、自ら学ぶことを求められます。そうした自律の姿勢を子どもたちに身につけさせるために、大人たちは日常生活の中で子供たちに愛情にあふれた「からかい」を遊びとして頻りに仕掛けています。ここでは、そうした「からかい」が自ら学ぶ力と創造力の育成にいかに関与しているのかを考えてみます。

参加申込について

参加ご希望の方は、以下のデータを付けてメール (akazawa.takeru@kochi-tech.ac.jp) でお申し込みいただければ幸いです。

お名前:

連絡先: 住所

電話番号

メールアドレス

